

## 佐賀県研究成果情報

極早生温州の果実腐敗に対するベンレート水和剤とベフラン液剤 25 の混用散布の残効性				
〔要約〕極早生温州の緑かび病を主体とした果実腐敗に対するベンレート水和剤4,000 倍とベフラン液剤 25 2,000 倍の混用散布の効果は、収穫 3 週間前～1 週間前の散布であれば、散布から収穫までの日数の長短および降雨量（累積 150mmまで）の多少に影響されることはなく安定している。				
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp
部会名	果 樹	専 門	果樹病害	対 象 温州ミカン

### 〔背景・ねらい〕

収穫前の天候不順や作業の集中等によって散布時期が左右される果実腐敗防止剤の残効期間および耐雨性を明らかにし、効果的な散布時期を提示する。

### 〔成果の内容・特徴〕

- 1 極早生温州ミカンの緑かび病を主体とした果実腐敗に対するベンレート水和剤 4,000 倍とベフラン液剤 25 2,000 倍の混用散布を収穫 3 週間前～1 週間前に実施すれば、収穫までの日数にかかわらず安定した効果が得られる（図1，表1）。
- 2 収穫 3 週間前～1 週間前に実施したベンレート水和剤 4,000 倍とベフラン液剤 25 2,000 倍の混用散布日から収穫までの累積降雨量が 150mm 程度までであれば、腐敗防止効果が低下することはなく、安定した効果が得られる。（図2）。

### 〔成果の活用面・留意点〕

- 1 本情報は 1999 年～2006 年の 9 月下旬～10 月中旬に実施した 11 試験事例の結果に基づいている。
- 2 ベフラン液剤 25 に混用するベンズイミダゾール系剤はベンレート水和剤である。トップジンM水和剤の混用効果はベンレート水和剤に劣る。
- 3 薬剤を溶かす順序がベフラン液剤 25 ベンレート水和剤の場合には沈殿を生じることがある。沈殿を生じたからといって防除効果が低下することはないが、ノズルによっては噴口が詰まったりすることが心配されるので、必ずベンレート水和剤を十分に溶かした後にベフラン液剤 25 を加える。
- 4 ベンレート水和剤とベフラン液剤 25 との混用薬液にさらに他の殺菌剤や殺虫剤、殺ダニ剤を加用した場合、すなわち、3 種混用や 4 種混用を行った場合には果実の薬液滞留部に褐変を生じることがある。必ず、ベンレート水和剤とベフラン液剤 25 との 2 剤のみの混用散布に限る。
- 5 散布後の累積降雨量が 150mm を越えるような多雨条件下での効果については不明であるので、再散布が望ましい。

[ 具体的データ ]

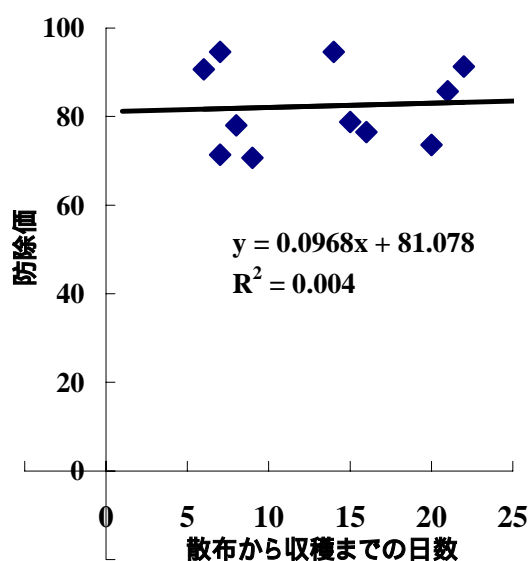


図1 ベンレート水和剤 4,000 倍とペフラン液剤 25 2,000 倍の混用散布の防除効果と散布から収穫までの日数との関係

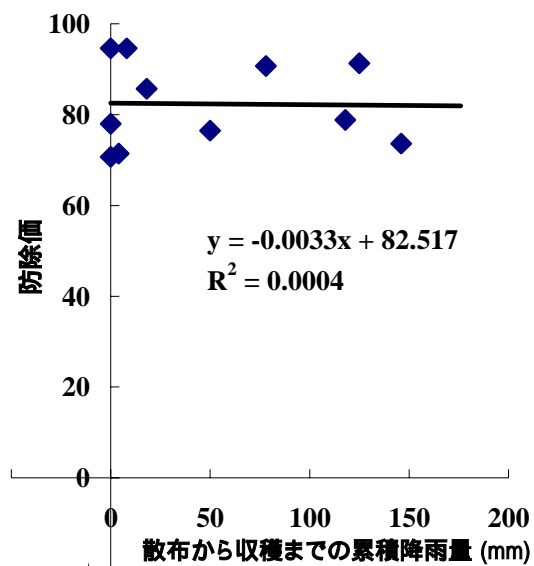


図2 ベンレート水和剤 4,000 倍とペフラン液剤 25 2,000 倍の混用散布の防除効果と散布から収穫までの累積降雨量との関係

表1 ベンレート水和剤 4,000 倍とペフラン液剤 25 2,000 倍の混用散布時期と防除効果との関係

散布時期	試験事例数	無散布との推定された発病率の比 <sup>a)</sup>
収穫 21 ~ 20 日前	3	0.1824 (0.1364 - 0.2440) <sup>b)</sup>
収穫 16 ~ 14 日前	3	0.1677 (0.1006 - 0.2795)
収穫 9 ~ 6 日前	5	0.2003 (0.1543 - 0.2600)

a) メタ・アナリシスによる統合値．例えば，収穫 21 ~ 20 日前散布の値 0.1842 とは腐敗果の発生が無散布の場合の 18.4%まで少なくなることを示している．

b) 95%信頼区間．

[ その他 ]

研究課題名：カンキツの緑かび病を主体とした果実腐敗に対する効果的防除技術の開発

予算区分：受 託

研究期間：平成 11 年 ~ 平成 18 年

研究担当者：田代暢哉，井手洋一，近藤知弥

発表論文等：佐賀県果樹試験場研究報告第 16 号（印刷中）